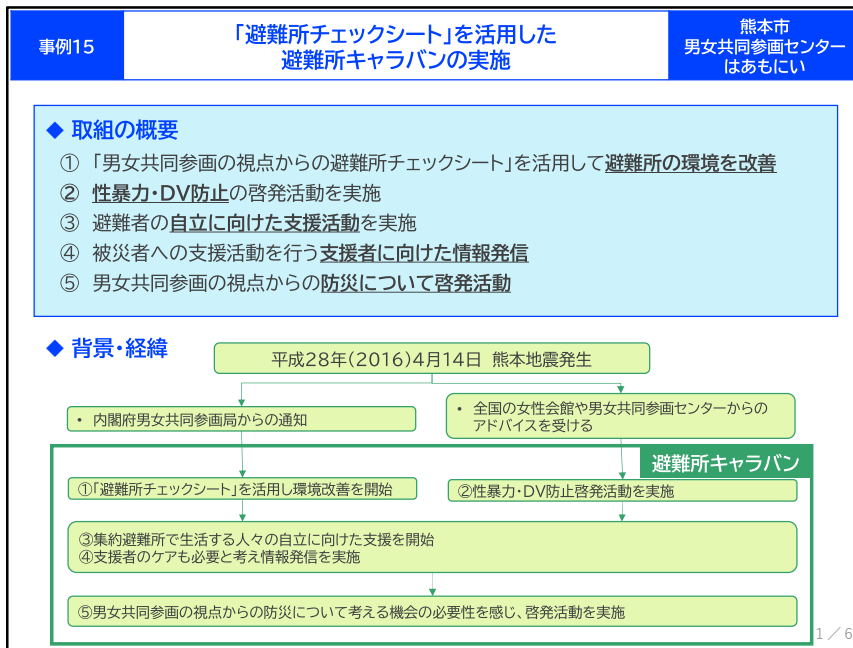




「避難所チェックシート」を活用した避難所キャラバンの事例です。

熊本市の男女共同参画センターはあもにい（以下、「はあもにい」）では、平成28年（2016）4月14日に発生した熊本地震の対応で、様々な取組を行いました。

まず、取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ①「男女共同参画の視点からの避難所チェックシート」を活用して避難所の環境を改善
- ②性暴力・DV防止の啓発活動を実施
- ③避難者の自立に向けた支援活動を実施
- ④被災者への支援活動を行う支援者に向けた情報発信
- ⑤男女共同参画の視点からの防災についての啓発活動

次に、取組に至った背景・経緯について説明します。

【背景・経緯】

〔発災当初〕

平成28年（2016）4月15日に、内閣府から、避難所運営について男女のニーズの違いに留意するようにとの通知があり、そこに「男女共同参画の視点からの避難所チェックシート」が添付されていました。

「はあもにい」は熊本市が設置した施設ですが、当時は、指定管理者が大規模災害時にどうするのかという取り決めが定まっていませんでした。発災後すぐに、内閣府や、過去に震災を経験している他地域の男女共同参画センターから注意事項やアドバイスをもらい、「私たちにできることは何か」ということを考えました。そこで、「避難所チェックシート」を活用した避難所キャラバンを熊本市に許可を得て実施しました。

〔全国女性会館協議会の相互支援システムを通じた助言・支援〕

地震発生の前年（平成27年（2015））に、全国女性会館協議会が主催した、男女共同参画の視点からの防災に関する講師養成研修を職員が受講していました。「今後、必要な視点だから、熊本でも取り組まなければ」と話し、「はあもにい」でも講座の計画を立てていた矢先に地震が発生しました。研修を受講していたので、災害後に発生するDVなどのリスクは認識していましたが、自分たちが大規模な災害に遭って改めてその重要性を強く感じました。

全国女性会館協議会がネット上に立ち上げた「大規模災害時における男女共同参画センター相互支援システム」に熊本地震発生後アクセスしたところ、いろんな地域の男女共同参画センター等から励ましと、助言が届いていました。例えば、支援に行きたいという多くの申し出があるが、それを全部受けると大変なことになるので、何を支援してほしいのかを明確にするとよいなど、右も左も分からない中、適切なアドバイスを受けることができ、とても助けられ、支えられました。

※「相互支援システム」は、全国女性会館協議会に加入している全国の男女共同参画センターが利用でき、災害時に被災地のセンターと支援を行いたいセンターとをつなぐシステム。

〔市との連携〕

熊本市は、大規模災害でかなり混乱していました。避難所の対応や、人手が足りないセクションへの応援などに行かなくてはいけない状況でした。その当時、市の地域防災計画には「はあもにい」の役割が明確に位置付けられていませんでした。はあもにいとしては、避難所における男女共同参画の視点や、困っている女性がいらないのかなどが気になり、熊本市の許可を得て、各避難所において①男女共同参画の視点からの環境改善活動、②性暴力・DV防止啓発活動、③自立支援、④ 支援者支援事業、⑤男女共同参画の視点からの防災についての意識啓発を行う、「避難所キャラバン」を実施しました。（実施期間：平成28年4月15日～平成29年3月末※「避難所キャラバン」報告書の作成までの期間を区切りとして表記しています）

事例15

「避難所チェックシート」を活用した
避難所キャラバンの実施

熊本市
男女共同参画センター
はあもにい

◆ 取組内容

① 「男女共同参画の視点からの避難所チェックシート」を活用して避難所の環境を改善



避難所でのヒアリング

【報告書ダウンロード】
内閣府男女共同参画局HP：
https://www.gender.go.jp/policy/chihou_enkei/torikumi/bousai/41-07-01.html



使用した
「避難所チェックシート」





更衣室や授乳室などの表示を配布して、
扉に掲示していただくよう提案



女性や子供向けの支援物資提供の
呼びかけおよび配布



生理用品の配布方法の提案



男女それぞれのトイレに
意見箱「みんなの声」を設置
定期的に回収し改善を求めた

2 / 6

避難所キャラバンのそれぞれの取組について説明します。

①「男女共同参画の視点からの避難所チェックシート」を活用して避難所の環境を改善

【ポイント】

- 市内に設置された避難所に、「はあもにい」の職員が手分けして出かけていき、内閣府の「避難所チェックシート」を用いて避難所の運営スタッフにヒアリングを行った。
- ヒアリングの結果をもとに、状況を確認しながら環境改善を進めた。
- 避難所に伺う際には、「更衣室」「授乳室」「女性用物干し場」といった表示物を持参して、掲示していただくよう工夫した。
- 下着などの支援物資も持っていく、避難者にヒアリングを行った。
- 発災直後から、相互支援システム上で女性や子ども向けの物資の提供を呼びかけ、発災後1週間で様々な支援物資が「はあもにい」に届いた。
- 届いた支援物資は、各避難所をはじめ、市民団体と連携して、車中泊をしている家庭や公共の施設などにも配布した。

【取組】

- 避難所の受付で調査の趣旨を説明し、対応に出て来た方に対して調査を行いました。対応者は、市役所の職員、教員、あるいは他県や他都市から来た応援職員、地域住民の方などさまざまでした。
- 避難所の責任者に話が聞きたいということで声を掛けましたが、交代したばかりの人などの場合もありました。避難所運営に大変な中で皆さん疲れ切っていて、「今、そんなこと言われても対応できない」と言われることもありました。
- 授乳室があるか、トイレは男女別になっているか、多目的トイレがあるかなどを、責任者の忙しさに配慮し、自分たちが直接見てチェックすることもありました。
- ゴールデンウィーク近くになると、避難所が集約されるらしいという情報が入ってきました。そこで私たちも、5月から集約避難所への調査を実施しました。
- 被災経験のある他県の男女共同参画センターから、「たくさん届く支援物資の仕分け作業に時間がかかる」との助言を受けていたので、「はあもにい」では、女性・子どもに特化した支援物資を中心に受け入れを行いたいと相互支援システムで伝えました（例えば、おむつ、生理用品など）。送るときには、内容や個数などを書いて送ってほしいとお願いしました。支援物資の中には、私たちに使ってほしいということで、ハンドクリームなどを入れてくださる団体もありました。
- 下着会社からブラジャーや肌着がたくさん届きました。支援してくれる企業を仲介してくれた多くの団体・人々に支えられました。

[意見箱「みんなの声」]

- 避難所集約後の5月10日から再調査を行いました。その際に、「みんなの声」という意見箱を設置してほしいと、お願いをしました。困りごとやお願いごとがあっても、被災者の方たちは、わがままや、ぜいたくだと受け取られてしまうと考えがちで、みんなが頑張っている中、声を上げにくい方がいらっしやると聞いていました。そこで、意見箱に入れてもらったら言いやすいのではないかと考えたためです。
- 人の目があるところでは意見を入れづらいだろうということで、人目につきづらいトイレがいいのではと考え（トイレは衛生的にどうかという意見もありましたが）、男女それぞれのトイレに置かせてほしいとお願いをしました。
- 「置くのはいいけど、定期的に意見箱の中の用紙を回収して、要望を確認するなどの対応はできない」という声があったので、回収は「はあもにい」が行い、寄せられた声を取りまとめて、ご提案できそうなことをお願いに上げることにしました。ほとんどの避難所で、そういうことであればと置いてくださいました。
- その後は、定期的に行くルートをつくり、改善の提案を行いました。

（意見の例）

- ・ 生理用品をトイレに置いてほしい
- ・ 人間関係（声がうるさい、怖い人がいる、ラジオの音がうるさい等）についての声も多かった
- ・ お風呂場に時計が欲しい
- ・ 同じエリアに男女が混在していると不安 など

（改善例）

- ・ 生理用品の配布の徹底（女性トイレに設置）
- ・ おおまかな男女別エリアの設置
- ・ シャワー室への時計の設置
- ・ 食事受け渡し時間の拡張
- ・ 夜間の騒音対応
- ・ 消灯時間の延長（21時→22時） など

- 一部の避難所で、女性や子育て世代を対象に、要望や困りごとについてヒアリングも行いました。

事例15

「避難所チェックシート」を活用した
避難所キャラバンの実施

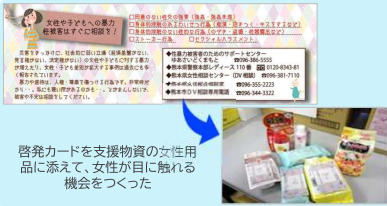
熊本市
男女共同参画センター
はあもにい

◆ 取組内容

② 性暴力・DV防止の啓発活動を実施



チラシ・ポスターを掲示板や
男女それぞれのトイレに掲示



啓発カードを支援物資の女性用
品に添えて、女性が目に触れる
機会をつくった

③ 避難者の自立に向けた支援活動を実施

避難生活を続けている人が、現在の場所とどまらずに、先に進むための自立に向けた様々な支援を実施



防災ミニ講座



親子メンタルケア講座



足湯・茶話会



子育ておしゃべり会

3 / 6

②性暴力・DV防止の啓発活動の実施

性暴力・DV防止ポスター・チラシ、カード、HPIによる啓発を行いました。

【ポイント】

- 性暴力・DVなどへの注意を喚起し、相談窓口を掲載したチラシ・ポスターを、掲示板や男女それぞれのトイレに掲示
- 当時の男女共同参画課の課長と局長、「はあもにい」の館長が連絡を取り合いながら、対応について相談し、許可を得て実施。
- 啓発カードを作り、生理用品などの女性用品に添えて、女性が情報に触れる機会をなるべく多く作った。

【取組】

- 東北では、東日本大震災から5年が経過した今（熊本地震当時）も、当時の性暴力やDVからカウンセリングを必要とする人が存在するということを当該地域の男女共同参画センターから聞いていました。
- 熊本ではそのような犯罪は一件も起きてほしくない、そのために何か動けないかという声があがり、真っ先にポスター作りに取り掛かりました。
- 相談窓口の情報を掲載しようとなりましたが、直後は窓口もすぐには開きませんでした。相談窓口が再開するタイミングで、避難所に貼りに行きました。
- 避難所には、男女共同参画課からポスターの掲示について連絡していただいたものの、当時は現場が混乱していて、避難所の担当が毎日変わることなどから、連絡がいきわたるのは難しかったようでした。
- 一方で、過去の経験を思い出してしまうので、あちこちにポスターを貼らないでほしいといった声もありました。

③避難者の自立に向けた支援活動を実施

【ポイント】

- 自力で自宅の片づけや、仮設住宅やみなし仮設住宅の手続きを進められないまま、避難所生活を続けている人も多く見られた。
- 避難所という非日常の場から現実に目を向けてもらうために、自分の身は自分で守ることを再認識してもらう防災講座や、栄養を考えた食生活についての話を盛り込んだ食事会を実施。
- 避難所閉鎖後は、地震後の子どものストレス反応に対するケアの方法などで不安を感じる保護者に向けた出前講座や、足湯、子育て中の母親を対象にしたおしゃべり会など、心のケアにつながる場を設けた。

【取組】

- 「はあもにい」は、指定避難所ではありませんでしたが、5月8日から中央区・北区（一部）の集約避難所となりました。避難者については、単身女性や母子を中心に受け入れることを決定。
- 集約避難所では、高齢者が多くを占め、単身女性や子育て世代とは違った課題を抱えていることが伺えました。そこで「はあもにい」では、避難所で長く生活を続けている人達が先に進むための自立に向けた様々な支援を、集約避難所を中心に実施しました。

【参考】

[車中泊への対応]

- 「はあもにい」では、車中泊などについての把握はできませんでしたが、毎年11月に実施している『はあもにいフェスタ』に参加しているNPOなどの団体が車中泊の避難者を支援しているといった情報が入ってきたので、その団体に物資を届け、情報共有を行いました。

[託児スペースの開放]

- 避難所などで安心して子どもを遊ばせられないお母さんに対して、「はあもにい」に親子同伴で来ていただき過ごしてもらうスペースを作ったところ、たくさんのご家族が利用されました。被害がひどかった益城町からも、うわさを聞いて来館されました。
- 託児スペースの開放については、避難所キャラバンなどでチラシを配ったり、避難所に支援に行く団体にチラシを持っていってもらったりしました。
- 一方で、災害が起きてからアナウンスしてもなかなか支援の情報が届かないという難しさを感じました。
- 平成29年に熊本市内に居住する未就学児を持つ女性を対象に実施したアンケート調査の結果では、この取組を知っていたのは1193人中15人。利用したと答えた方は2人でした。

[当時の課題]

- 「はあもにい」が管理する施設が集約避難所となり、8月まで避難所運営が続きました。平常時の仕事（ホールや研修室などの貸室業務や講座の開催など）と被災者への支援活動の両立には難しいものがありました。

◆ 取組内容

④ 被災者への支援活動を行う支援者に向けた情報発信

被災者への支援にあたる支援者自身がストレス反応を知り、休養をとり、心身を整えることの必要性を伝える「自己メンテナンスシート」(右)を作成

【ダウンロード】
はあもにいHP：
<http://harmony-mimoza.org/news/2017/03/post-152.html>



自己メンテナンスシート



自己メンテナンスシートを用いたストレスケア研修

⑤ 男女共同参画の視点からの防災について啓発活動

性別や立場による災害時のニーズの違いを学び、男女共同参画の視点からの防災について考える機会の提供



シンポジウムの開催



防災講座の実施



活動の報告



防災パネルの展示▶

④被災者への支援活動を行う支援者に向けた情報発信

被災者への支援にあたる支援者自身がストレス反応を知り、休養をとり、心身を整えることの必要性を伝える「自己メンテナンスシート」を作成しました。

【ポイント】

- 被災者への支援活動をする支援者に向けて「自己メンテナンスシート」を作成
- 国際協力NGOからの支援を受け、臨床心理士でもある、活水女子大学土居隆子特別専任教授の監修のもと作成
- 被災者支援を行っている市民団体を対象に、自己メンテナンスシートを用いてストレスケアの研修を実施

【取組】

- 災害支援にあたる支援者は、継続的な支援活動で休息が取れず、ストレスをため心身に不調をきたすことがあると、過去に震災を経験している他地域から話を聞いていて、熊本でもそのリスクがあると考えました。
- 熊本地震でも余震が多い中、自らも被災者でありながら、避難所の対応にあたる行政職員を始め、被災者への支援活動をする支援者に向けて「自己メンテナンスシート」を作成しました。

⑤男女共同参画の視点からの防災についての啓発

性別や立場によるニーズの違いを学び、男女共同参画の視点からの防災について考える機会を提供しました。

【ポイント】

- 男女共同参画の視点からの防災についての啓発活動

(主な活動)

- ・ 災害時における、思春期、若年期の女性支援について考えるシンポジウム
- ・ 男女共同参画の視点からの防災講座
- ・ 防災備蓄品を利用した料理教室
- ・ 男女共同参画の視点による防災パネルを展示
- ・ 避難所キャラバンについての報告

【取組】

- 非常時は、性別や家族構成、障がい・病気の有無や程度により、困りごとや必要な支援が異なります。そこで多様なニーズや課題について学ぶため、男女共同参画の視点からの防災についての啓発活動を行いました。

事例15

**「避難所チェックシート」を活用した
避難所キャラバンの実施**

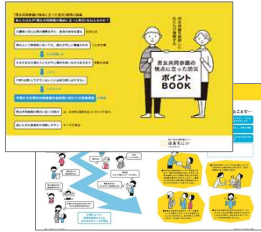
**熊本市
男女共同参画センター
はあもにい**

◆ 現在の活動

○男女共同参画の視点に立った防災ポイントBOOKを作成

○熊本地震を経験した「育児中の女性」へのアンケート報告書を作成

「男女共同参画の視点に立った防災」について伝えるため、アンケート報告書に掲載した市民の声を反映して、多様な支援について大きなポイントを掲載し、みんなで考える内容となっている。



防災ポイントBOOK



熊本地震を経験した
「育児中の女性」へのアンケート報告書



はあもにい無料防災出前講座 2020
←出前講座のチラシ
出前講座の様子

【ダウンロード】
はあもにいHP：
<http://harmony-mimosa.org/news/2020/12/book.html>



5 / 6

「はあもにい」の現在の活動です。

【ポイント】

- 地震の翌年に、熊本市内に居住する未就学児を持つ女性を対象にアンケート調査を実施。平成30(2018)年3月末に、「熊本地震を経験した育児中の女性へのアンケート報告書」を作成
- 平成31(2019)年3月末に、男女共同参画の視点に立った防災ポイントBOOKを作成
- 災害時に必要な「男女共同参画の視点に立った防災」について伝えるため、上記報告書に掲載した市民の声を反映して、「女性」「男性」「LGBT」「高齢者」「障害者」等のそれぞれの支援について大きなポイントを掲載し、みんなで考える内容となっている。
- 現在、無料の「防災出前講座」を行っている。(企業、保育園、PTA、高校、自治会、介護施設、老人ホーム、地域包括センター、検察庁などから依頼が来て実施)

【取組】

- 大きな災害を経験した熊本でも、男女共同参画と防災が結びつかない人が多いのが現状です。平時にできていないことは緊急時にはもっとできない、平時からの男女共同参画の啓発・推進が重要という課題認識があって、このテキストを作成し、防災出前講座を続けています。

(テキストの概要)

- 避難所で女性に起きた問題や、妊婦や子ども連れの家庭が感じたことはどういうことだったのか、また、災害時に浮き彫りになる固定的な性別役割分担意識などについて掲載しています。日常にある男女共同参画の問題が、災害時にはさらに大きく現れます。
- 避難所でいろいろな性暴力の可能性があることも伝えていきます。ストーカー、のぞき、授乳中に感じた視線などの不安が、とても大きな問題になるかもしれないということを知っておいてほしいと思っています。
- 女性ばかりでなく、男性に起きた問題も伝えていきます。男性に責任が集中して、過剰労働になっていたたりして、「もう全然寝てないよ、頑張ってるのに」という声も被災時には上がっていました。悩みや弱音を吐き出せず、心を病んでしまうパターンがあることも伝えていきます。
- 高齢者や、一見支援が必要ないように見える若者の困難に関しても見過ごしていることや、思わぬ事件に巻き込まれてしまう事例などを伝えていきます。
- 出前講座の内容は、基本的には男女共同参画の視点に立った防災です。実際の避難方法ではなく、男女共同参画の視点に立った防災とはどういう視点なのかという話をしています。
- 避難した後、避難生活が3日、1週間、1カ月と延びた場合に、命は助かったのに、避難所の環境などによって病気が悪化したり、あるいは精神的に病んでしまい、震災関連死につながる恐れもあります。いろいろな立場の方がいて、その人たちが何に困っていて、あるいはどんな支援があったらいいのかを、行政任せではなく、一人一人が考えていかないといけない、というところを伝えていきます。

【参考】

[防災講座の参加者の反応]

- 世の中にいろいろな人がいるので一律の助けでは難しい。多様な困難を知って、多様な支援の形があるということを知る、そうすると男性も女性も互いに助け合えるんですよというお話をすると、学生や年配の男性の方からは、ただただ純粋な驚きが返ってきたこともありました。
- 自治会長はまだまだ男性が多いですが、地域を思っ^て熱心に活動されています。ただ、若い人たちの協力が得られないことなどに悩んでいらして、私たちも何か助けになればと思うことが多いです。
- 出前講座を受講して、男女共同参画の課題を知り、もっと多くの人に広めたいと思ってくださる方が出てきています。「他の人にも知ってほしいのでぜひうち(他の団体)でもしてほしい」という声があると、出前講座を行った甲斐があったなと思います。

[今後の展開]

- できれば防災士の人たち、特に女性防災士の人たちに、こういった男女共同参画の視点に立った防災の本質を知ってもらって活動してほしいという思いがあり、現在、所管課に相談しているところです。

事例15	「避難所チェックシート」を活用した 避難所キャラバンの実施	熊本市 男女共同参画センター はあもにい
◆ 取組のポイント ✓ (避難所チェックシート等)既存のツールを活用し避難所の環境を改善した ✓ 全国の男女共同参画センターからの助言・情報を得て、支援活動を行った ✓ 震災後の性被害を未然に防ぐため、性暴力・DV防止啓発活動を行った ✓ 被災者の自立支援や支援活動を行う支援者へのストレスケアを行った 【担当者のメッセージ】 2016(平成28)年4月に起きた熊本地震において「熊本市男女共同参画センターはあもにい」は、男性と女性のニーズの違いをはじめ、乳幼児、妊産婦、若者、高齢者、障がい者、病人、外国人、性的少数者…など、それぞれに必要な支援を考えた行動が大事であることを学びました。そして、さまざまな立場の人たちが共に責任を担いながら支え合う「男女共同参画の視点に立った防災」が力を発揮し、その後の心身の回復に影響することを改めて感じました。 被災時に私たちが全国の男女共同参画センター等に支えられたことを含め、大規模災害で得た教訓を「一過性に終わらせない」、また「一地域だけにとどまらせない」ことを念頭に、つないでいく活動が重要だと考えています。 団体の概要 問い合わせ先 熊本市男女共同参画センターはあもにい 所在地: 〒860-0862 熊本市中央区黒髪3丁目3番10号 Tel. 096-345-2550 Fax. 096-345-0373 HP http://harmony-mimoza.org/ 		

6 / 6

「熊本市男女共同参画センターはあもにい」による男女共同参画の視点からの取組ポイントは、この4点です。

- ・ 「避難所チェックシート」など既存のツールを活用し、避難所の環境改善のために発災後すぐに動き始めた
- ・ 全国の男女共同参画センターからの助言・情報に基づき、支援活動を実施した
- ・ 震災後の性被害を未然に防ぐため、性暴力・DV防止啓発活動を行った
- ・ 被災者の自立支援や支援活動を行う支援者へのストレスケアを行った

【担当者のメッセージ】

2016(平成28)年4月に起きた熊本地震において「熊本市男女共同参画センターはあもにい」は、男性と女性のニーズの違いをはじめ、乳幼児、妊産婦、若者、高齢者、障がい者、病人、外国人、性的少数者…など、それぞれに必要な支援を考えた行動が大事であることを学びました。そして、さまざまな立場の人たちが共に責任を担いながら支え合う「男女共同参画の視点に立った防災」が力を発揮し、その後の心身の回復に影響することを改めて感じました。

被災時に私たちが全国の男女共同参画センター等に支えられたことを含め、大規模災害で得た教訓を「一過性に終わらせない」、また「一地域だけにとどまらせない」ことを念頭に、つないでいく活動が重要だと考えています。